



報道関係者各位

2009年11月16日(月)

デジタルハリウッド大学大学院**特別講座「3D立体映像プロジェクト」開講記念****立体映像セッション 2009****～3D立体映像がもたらす未来～****日時:2009年11月24日(火) 19:00～21:00****会場:デジタルハリウッド大学大学院 秋葉原キャンパス**

日本初の株式会社による専門職大学院、デジタルハリウッド大学大学院(本校:東京都千代田区学長 杉山知之 以下本学)は、2009年12月21日より、先進的な3D立体コンテンツの創造に向けた人材育成を目的とした特別講座「3D立体映像プロジェクト」を開講いたします。

そこで本プロジェクト開講に先立ち、【立体映像セッション2009～3D立体映像がもたらすミライ～】を11月24日(火)に開催いたします。

3D立体映像の市場は上映設備機器の導入コストやコンテンツの少なさから、過去に様々な取り組みがありつつも一般には認知が少ない状況でした。しかし、家庭用のディスプレイ、再生機器が高精細になるにつれて、劇場映画を楽しむ差別化として集客力を高める必要性があったことも大きな要因となり、ハリウッドを中心に3D映画の本格的取り組みが始まっています。

3D立体映像に対応した劇場のスクリーンは2009年末に世界中で7000(2006年の約9倍程)に達すると予測されており、日本の上映館も2009年中には180(2008年の約3倍)にまで増加しています。

この流れは映画以外の市場にも伝播し、テレビ番組の放送や、新たなアミューズメントコンテンツの提供が始まっています。さらに、パソコンやケータイまで幅広いプラットフォームでの利用も可能となり、その応用範囲は教育、医学、デザイン、マーケティングなど様々な分野、領域において拡大しようとしています。

したがってメディアやプラットフォームに適合した3D立体コンテンツが今後ますます必要となり、コンテンツの充実の為に早急な人材育成が求められています。

デジタルハリウッドでは、3D立体映像を創造できる人材育成する為の教育を提供し市場の発展に貢献したいと考えています。



今回開催する記念セミナーでは、プロジェクトに先立ち、既に映画・CGでの制作を行い、ノウハウ・知見を持った方をお招きし、現状での3D立体映像制作をとりまく状況や今後の展望について、参加される皆様と意見を交していただくことを目的としています。

つきましては、11月24日(火)に開催いたします当セミナーに、万障お繰り合わせの上、ご参加並びにご取材いただけますようお願い申し上げます。

取材ご希望の方はEメールにてお申し込みください。

(デジタルハリウッド広報宛 press@dhw.co.jp)。

【立体映像セッション 2009 ～3D立体映像がもたらす未来～】

<http://gs.dhw.ac.jp/event/20091124/>

■日時:2009年11月24日(火) 19:00～21:00(開場18:30)

■内容:

- 3D立体映像をとりまく環境の変化
- より効果的な映像制作のポイント
- 今後どのように3D立体映像が普及していくか

※本セミナーはセッション形式(受講者参加型)での実施となります。

■場所:デジタルハリウッド大学大学院・秋葉原メインキャンパス
東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル7階
(アクセス) JR「秋葉原駅」電気街口徒歩1分
日比谷線「秋葉原駅」徒歩5分
銀座線「末広町駅」徒歩5分
つくばエクスプレス「秋葉原駅」徒歩3分
<http://www.dhw.ac.jp/access/>

■定員:50名(先着順)

■参加料:2,000円(交流会飲食費含む)

■主催:デジタルハリウッド大学大学院 産学官連携センター

【特別講座:3D立体映像プロジェクト】

<http://gs.dhw.ac.jp/event/20091124/>

●プロジェクト概要

「3D立体映像制作プロジェクト」は、立体映像の基本的な原理原則を知り、視聴者が映像を見た時にどう見えるか、どう感じるか等視覚生理や心理的な知識を学び、撮影・編集を通して実際に3D立体映像を制作する実地研修型のプロジェクトです。本学の学生の他、一般の方々の参加も可能となっております。

● 到達目標：

1. 3D 立体映像の原理について理解できる
2. 市場動向や現状について把握できる
3. 制作の方法について理解できる
4. 撮影から上映まで、工程全般を理解できる

● 主な内容

- ・ 3D 立体映像の市場及び技術
- ・ 3D 立体映像の仕組み(視聴者の心理や生理学的側面から)
- ・ 撮影研修
- ・ 制作研修(編集/上映)
- ・ 撮影、制作演習
- ・ 講評会

● 担当講師

・羽倉 弘之(はぐら ひろゆき)

東京大学大学院情報学環

超臨場感コミュニケーション産学官フォーラムのアドバイザー・コミティ・メンバーをはじめ、日本VR学会(評議員・会員)、映像情報メディア学会(会員)、画像電子学会(編集委員)、立体映像産業推進協議会(会員)、3Dコンソーシアム各会員、「画像ラボ」編集委員等を務める。現在の研究テーマとして三次元映像システム、眼精疲労、脳の高次機能などを研究し、他の大学および大学院でマルチメディア、CG、ICT等の授業を担当。

・小山 一彦(こやま かずひこ)

株式会社ビジュアルコミュニケーションズ

社団法人全国放送関連派遣事業協会(会長)、立体産業推進協議会(幹事 運営委員)、映像情報メディア学会(会員)、財団法人デジタルコンテンツ協会 立体ディスプレイ用標準評価映像の調査研究委員。

・大口 孝之(おおぐち たかゆき)。

映像クリエイター/ジャーナリスト。

1959年岐阜市生まれ。東京写真専門学校・映画芸術科卒。日本初のCGプロダクションJCGLのディレクター、世界初のフルカラードーム立体映像IMAX

SOLIDO「ユニバース 2～太陽の響～」のヘッドデザイナーなどを経て、フリーランス映像クリエイター/ジャーナリスト。NHKスペシャル「生命・40億年はるかな旅」のCGでエミー賞受賞。「映画テレビ技術」「CGWORLD」等に執筆。代表的著作「コンピュータ・グラフィックスの歴史」(フィルムアート社)。



・月岡 英生(つきおか ひでお)

株式会社白組 調布スタジオ所長

虫プロダクション撮影部として入社し、劇場用作品の撮影を担当。旭プロダクションを経て、株式会社白組にてCF作品撮影を担当する。国際科学技術博覧会(TSUKIBA EXPO '85)IBM館(1985)横浜博覧会 東京ガス館(1989)、国際花と緑の博覧会(花博)(1990)、山陰・夢みなと博覧会(鳥取博)(1997)、「平和の時代」3D劇場用作品(1999)

● 開講日:2009年12月21日(月)~2010年3月8日(全7回)

● 料金:98,000円(税込み)

【当プレスリリースに関するお問い合わせ】

デジタルハリウッド株式会社 広報戦略部 パブリックリレーションズグループ:川村

mail:press@dhw.co.jp

TEL:03-5281-9248

デジタルハリウッド公式サイト :<http://www.dhw.co.jp/>

学長ブログ「スギヤマスタイル」:<http://www.sugiyama-style.tv/>

過去のプレスリリース:<http://www.dhw.co.jp/grand/presroom/release/2009/>

<立体映像セッション2009 ~3D立体映像がもたらす未来~ 取材お申し込み方法>

公開セミナーの取材ご希望の皆様は下記フォームにご記入の上、11月20日(金)までにEメールにてお申込みください。

■取材に関する留意事項(※必ずご一読ください)

- ・取材の方は開始10分前までに会場へお越しください。
- ・入場の際は受付にて身分の確認できるものをご提示願います。(名刺で結構です)
- ・駐車場の用意はございませんので、各社でご手配願います。

<<立体映像セッション2009 ~3D立体映像がもたらす未来~ 取材申し込みフォーム>>

貴社名 :

貴社媒体名 :

お名前 :

電話番号 :

メールアドレス :

取材形式(該当を全て記載) : スチール / TVカメラ / ペン

→ 申し込みメールアドレス:press@dhw.co.jp (件名: 立体映像セッション 2009 取材希望)